

IMF サーベイ

2014年ディンブルビー講演

ラガルド専務理事

「21世紀のための新たな多国間主義」を求める

2014年2月3日



インドネシア・ジャカルタの子供たち：若い世代の強い願望を満たす十分な成長と雇用の創出が不可欠（写真：Beawiharta/Reuters/Newscom）

- 世界経済の新たなトレンドにより、新たな多国間主義へのコミットメントの強化が必要に
- より力が分散したより多様な世界が提起する課題
- より包摂的で世界経済の新たな声に耳を傾ける新たな多国間主義

ポイント： 国際通貨基金のクリスティーヌ・ラガルド専務理事はロンドンで、現在そして未来の経済のトレンドに対応するためには、国際協調に改めてコミットする必要があるとして「21世紀のための新たな多国間主義」を求めた。

国際通貨基金（IMF）のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、ロンドンで開かれた2014年ディンブルビー講演で演説を行った。このなかで同専務理事は、現在そして未来の経済のトレンドに対応するためには、国際協調に改めてコミットする必要があると述べた。

同氏は、世界の相互関連の緊張の高まりと経済の持続可能性の緊張の高まりという「二つの大きな流れ」が今後の世界を支配すると考えられると述べた。これらの新たな世界的緊張状態への対処手法として、同氏は

過去を足場とした今後の世界に相応しい解決策、すなわち国際協調の枠組みの強化を表す「21世紀のための新たな多国間主義」を提唱した。

新たな多国間主義とは

再度脚光を浴びることとなった多国間主義は、主に以下から構成される。

- 経済の開放及び「貿易と外国投資の相互利益」へのコミットメントを新たに
する
- ブレトン・ウッズ体制から大きく発展しますます複雑さをます国際通貨制度
を管理する

- 「金融部門の目標ではなく生産的な経済を支える」危機後の時代のための世界的な金融部門を構築する

以上に加えラガルド氏は、気候変動や格差といった大きな課題に効果的に取り組もうとするならば、「新たな多国間主義」では、世界的な責任に対する認識を高める必要があると述べた。

「私が考えるところの 21 世紀の協力の形は容易には実現しないだろう」と述べ「この危機が終わりを迎え、自己満足に陥り、次の危機の種すらまかれる。これは時間が経つにつれますます困難になるだろう」と指摘した。

さらに、国連、世界銀行、世界貿易機関、そして IMF といった例を挙げ、既に効果をあげている協調の形があるとし、これら機関は、具体的或いは「ハードな」グローバル・ガバナンスの形態と呼ぶことができようとして述べた。

同時に、G20 や非政府組織のネットワークといった「ソフト」な形を取ったものも複数存在する。ラガルド氏は、「これら『ハード』と『ソフト』な協力体制は相互に補完することができる」と指摘した。

「新たな多国間主義は、世界中で生まれている様々なパワーのみならず、世界経済に既に深く組み込まれている成長を続けるネットワークや同盟も組み込むなど、これまで以上に包摂的でなければならない。新たな多国間主義はこうした新しい声に耳を傾けこれに対応する能力を有してなければならない」と述べた。

現下の危機を乗り越える

ラガルド氏は、成長の当面の最優先事項は、6 年前に発生しいまだ収束に至っていない金融危機に終止符を打つことだと述べた。

「高水準の官民債務の遺産的問題、弱い銀行制度、競争力と成長への構造的障害といった諸問題に継続的かつ協調的に取り組むことが必要だ。こういった問題は極めて高い失業率という問題を我々に突きつけている」

同時に同氏は、金融の統合は危機発生頻度が増しそのダメージが一段と大きくなるという可能性もはらんでおり、また瞬時に広く行き渡るコミュニケーションにより確執と混乱が広がる可能性もあるとし「このために、世界経済はより不安定化しやすくなる可能性がある」と指摘した。

同氏は、こういったリスクの管理には国際協調の強化が重要だと強調した。

世界的安定へのより長期的な障害

ラガルド氏は、今後世界が直面するより長期的な主要課題の枠組みの中で、現在の危機を考察した。

- **人口動態。** 先進国・地域の高齢化、そして多くの新興市場国・途上国の「ユース・バルジ（若年層の膨張）」双方の課題である。世界の人口の半分にあたる約30億人が25歳未満である。こうした勢いのある世代の強い願望を満たすことができる十分な成長及び雇用を創出することに、多くはかかっている。
- **環境悪化。** より多くの富を手にした人々が増えることで、天然資源は限界にきている。エネルギー補助金の恩恵を受けている層は、主に貧困層ではなく比較的富裕な層であり、その段階的廃止を解決策に含むべきである。こうした補助金を縮小しエネルギーの使用に適切に課税することは「人々と地球双方にとりプラスとなろう」。
- **所得格差。** 所得分配のゆがみはより長期的に、成長のペースと持続可能性を損なう。税制及び歳出政策を慎重に練ることで財政システムは、格差の是正に寄与することが可能である。

以上に加えラガルド氏は、女性の平等とエンパワーメントを一段と進めるよう改めて求めた。「女性が貢献する機会を許さないことで、我々全ての生活水準が下がることになる」

「女性が男性と対等な立場で参加することができるよう挑戦する。私はこれを『差に挑む』と呼んでいるが、これは世界の経済というゲームに変化をもたらすことができよう。女性に成功する機会を与えなければならない。我々のために、そして全ての未来の若い少女と少年のために」

ラガルド氏は、経済・金融・テクノロジーから見て結びつきを強める一方で、パワー、影響力、意思決定においては分断が進む世界が誕生する—これがリスクだと述べた。「これは、決断の引き伸ばしや行き詰まり、不安定性の増大を引き起こしかねず、新たな解決策が必要である」とした同氏は、

協調の強化、すなわち新たな多国間主義がその解決策の中核となろうと述べた。

関連リンク：

[加速する世界成長
成長政策に焦点を
IMF の強固な成長のための課題
着実な成長のための改革](#)